

特別支援教育における「通級による指導」の推進

～個別の教育支援計画等をツールとした小学校、中学校と
高等学校との円滑な引き継ぎと支援の充実を目指して～

船橋市立船橋中学校

電話 047-422-8121

FAX 047-422-8122



研究のポイント

通級担当として小学校6年生から中学校3年生まで関わってきた生徒が、進学先との引き継ぎ後にどのような高校生活を送っているかを検証することで、本教室の支援内容や引き継ぎ方法を振り返り、通級指導教室での支援の充実を図っていく。

■学校の概要 <http://www.city.funabashi.lg.jp/gakkou/0002/funabashi-j/index.html>

学校教育目標

「知」…自ら学び自ら考える生徒の育成

「徳」…豊かな徳性を持ち、強い意志で正しく行動できる生徒の育成

「体」…健康で活力のある生徒の育成

本校は、船橋の中心部に位置し、古くから商人の町である船橋町と歴史ある農村である八栄や夏見が学区を構成している。県内で最も乗降数が多い JR 船橋駅をはじめ、京成、東武、東葉高速などの鉄道や古くからある成田街道や国道14号線などの道路も走る交通の要所でもある。また、学区内には、市役所という行政の中枢も抱える。

全校生徒数は1,096名で通常の学級31、特別支援学級2の33学級で構成されている。通級指導教室も平成18年度より設置され、本校生徒と近隣中学校の生徒が通級している。平成25年度からは、聞こえの教室(県立船橋特別支援学校サテライト教室)も開校されている。

■研究課題

高等学校進学後、中学校の発達障害通級指導教室の教育実践が、どのように生かされているのかを検証し、成果と課題を明らかにすることで、より良い引き継ぎ方法や実践内容を研究していく。

■研究の目的と方法

〈研究の目的と方法〉

- 高等学校進学後の生徒の実態を把握し、中学校での実践内容の振り返りを行う。
- 高等学校での支援内容を把握し、引き継ぎ資料の内容を再検討する。
 - ・電話で保護者、本人との聞き取り調査。
 - ・進学先への訪問。
- 在籍校や高等学校との連携を密にし、支援内容の共通理解を図る。
 - ・中学校・高等学校との合同研修
- 外部に通級指導教室の概要を発信する。
 - ・教育事務所 視察

■ 研究概要

1 引き継ぎ後の生徒の実態把握

- ・卒業後の学校生活や家庭での様子を保護者・本人と電話で聞き取り調査を行った。
- ・進学先である船橋市立船橋高等学校、千葉県立松戸南高等学校に訪問し、実際に生徒の授業の様子を参観させてもらうことができた。また、担任の先生や特別支援教育コーディネーターから、これまでの様子や支援内容を直接伺うことができた。

2 中学校・高等学校との合同研修会

「中学校と高等学校との円滑な引き継ぎと支援の充実を目指して」というテーマで研修を行った。内容は、船橋中学校通級指導教室の概要や引き継ぎ方法、船橋市立船橋高等学校の取り組みを中心に実践報告を行った。また、全体を通して、千葉県立習志野特別支援学校長の望戸先生に講話をいただいた。

参加者：特別支援教育コーディネーター、担任等（葛南地区高等学校、船橋中学校通級指導教室通級生徒在籍校、千葉県立船橋夏見特別支援学校、船橋市立船橋特別支援学校、船橋市教育委員会指導主事、千葉県教育委員会指導主事）。

3 東葛飾教育事務所 視察

東葛飾教育事務所視察では、通級生（本人、保護者の同意を得て）の授業風景を参観してもらい、授業内容や授業での生徒の様子を実際に見て頂く機会となった。参観後の概要説明でも、船橋市の通級指導教室の歴史や現状と課題、質疑応答を含めて協議会を行い、通級指導教室の事を外部に発信する啓発活動とすることができた。

訪問者：千葉県教育庁東葛飾教育事務所（所長を始め4名）、鎌ヶ谷市教育委員会（教育長を始め4名）、鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校長、船橋市総合教育センター室長

4 研究の成果

市立船橋高等学校に進学をした通級生は2名おり、小6の就学指導委員会後（中学校通級指導教室継続決定）から関わってきた。引き継ぎの際には、「引き継ぎのための連絡票」（在籍校担任作成）や添付資料（通級担当作成）として、小学校からの引き継ぎ内容、「中学校での支援の様子と個別の指導計画の3年分をまとめたもの」、保護者の状況等、必要な情報を資料提供や口頭という形で伝えている。市立船橋高等学校では、引き継ぎを基に特別支援教育コーディネーターを中心に「個別の指導計画」を作成し、入学前から学年主任及び学級編成担当者へ伝え、クラス分けの配慮や学年会議、職員会議等で本人の様子や必要な支援内容について、他の職員へ周知している。今年度の研究で、実際に卒業生が高等学校で学校生活に取り組んでいる姿を見ることができ、引き継ぎの大切さを改めて実感することができた。また、中学校と高等学校との合同研修会を開催することで、通級指導教室の支援内容や引き継ぎの現状と支援の実際を葛南教育事務所管内の学校に周知する絶好の機会となった。

4 今後の課題

今年度の研究で、通級指導教室での6年間の教育実践を振り返る良い機会となった。そして、引き継ぎを行った高等学校の現状を知ることで課題も見えてきた。引き継ぎの際に、3年間の中学校での支援の様子や「個別の指導計画」をまとめたものを引き継ぎ資料として添付しているが、それらの内容を盛り込んだ「個別の教育支援計画」として作成する必要性を感じた。そのためには、在籍校との連携をより深める必要がある。また、指導計画を作成し、常に通級指導教室での実践を発信できるようにしていきたい。次年度以降も、中・高の円滑な引き継ぎと支援の充実を目指して、教育実践を行っていきたい。